

ステージ発表

今年も恒例のステージ発表が11月27日(土)に神奈川県総合リハビリセンター体育館にて開催されました。今回で16回を数える同発表では、11施設で200名近くの参加者により大変盛り上がりしました。

開催へ向けて毎回キャッチフレーズを決め、それを基に発表会を企画しておりますが、今回は、「DEAR FRIENDS みんなひとつに整いました」というフレーズを掲げ、利用者、ゲスト、職員、文化委員は皆仲間であり、参加者で一丸となろうという意を込めて取り組んできました。

発表当日は、およそ3時間という開催時間ではありましたが、会場が一体となって皆楽しい時間を過ごされていました。その一方で、ステージ上では日頃の練習の成果を発揮しようと、真剣な表情で発表に臨む利用者の姿勢が印象に残りました。

また、ゲストとして、兄弟デュオのけい太とこう太さん(K&K)にご協力いただき、ステージ発表の最後にスペシャルステージとして歌を披露していただきました。その歌を聴きながら、発表を終えた利用者の方達が、ステージの前で思い思いの形で踊る様子が、盛り上がったステージ発表を象徴するものでした。



文化委員会 リバーサイド泉 上田

特集 各種大会結果報告

作品展示・販売



毎年恒例の作品展示・販売が、1月19～23日の5日間、かながわ県民センター1F展示場にて開催されました。今回で16回を数える同展示・販売は、展示部門で14施設、販売部門では6施設の参加がありました。展示では、油絵・陶芸・七宝焼・書道、販売では、パン製品や小物入れなど各施設で様々な物が出展、販売されていました。利用者さんも積極的に展示の準備や販売に参加され、来場者に声を掛けながら、一生懸命に自分達の作った商品などを販売する姿がみられました。

今回の開催では、前年度の381名をはるかに上回り450名の方に来場いただき、さらに、作品を購入したいと申し出る方もいるなど反響の大きい催しとなりました。もうすでに、この展示会が終わった後、早速来年の作品展示に向けて創作活動に入っている利用者さんもいる等、生活の一部として定着している面も見受けられます。

今回は、「自己満祭～ひとりひとりがアーティスト～」をテーマに、アーティストとして利用者の方達ひとりひとりの心のこもった作品や商品が、多くの来場者の目に触れ、日頃どのような活動をしているのかという事が分かる良い機会となりました。 文化委員会 リバーサイド泉 上田

日中活動委員会 活動報告

日中活動委員会 副委員長 社会福祉法人 湘南の風 もやい 菊池一美

平成22年7月より隔月開催されている本年の日中活動支援委員会の活動内容をお伝えいたします。

本年の主な活動は①各施設の現状と課題を共有し、各施設の取組からヒントを得ることが出来る会合。②施設見学によって課題を一層、共に考えられる横の連携。③各施設の共通課題分野に関する研修の開催です。

各施設より提示された課題は自立支援法による収入の減が支援体制やサービスメニューの縮小や画一を招いている現状も見られました。送迎や、入浴など必要最小限のサービスを守ることに疲弊している現状は、その施設だけでなくこの業種全ての課題ともいえます。しかし、暗い話題だけではなく、その地域や風土にあった活動を取り入れ、利用者満足度の向上を図っている施設も見られ、日中系施設はまさに「地域あつてのもの」という動きも見られています。

各施設は主たるサービス対象は身体障害者でありながらも、知的障害、精神障害、高齢者介護などさまざまな分野の福祉サービスを総合的に提供する必要性に迫られています。その中でも「高次脳機能障害」がある方への支援はどの施設も創意工夫しながらも難しさを日々感じています。そこで、22年11月10日には神奈川県リハビリテーション病院よりコーディネーターの瀧澤学氏を講師としてお招きし、研修会を開催いたしました。この障害の基本的なことから、事例を織り交ぜ非常に分かりやすく講義してくださいました。質疑応答での印象に残ったフレーズを紹介する事でこの会の成功をお伝えいたします。

「施設対応となる方は圧倒的に困難なケースが多い。また、支援の効果が表面化するのに時間がかかることもこの障害の困難さである。その方の言動から、その表現の意味を捉える。本人の声にならない声を聞き取り寄り添い、歩む、本人の語りを大事にしてほしい。」福祉の原点ともいえることを再度、学ぶことが出来ました。

自主製品紹介 茜洋舎

このコーナーでは各施設の自主製品をご案内していきます。今回は、茜洋舎さんの「漬け物」ほかをご紹介します。

茜洋舎では、利用者による生産的活動として漬物(らっきょう・梅干し・白菜)づくりやふきん等の布製品、リボンストラップ製作を行っています。らっきょう・梅干しは毎年6月頃に漬け始め、通年販売しています。白菜は11月～2月の期間に2回漬け作業を行い、各種バザーでの店頭販売や、注文を受けたお宅に利用者職員で配達をしたりしています。梅干しは紀州南紅梅を使用するなど材料の産地からこだわり、無添加で全ての工程が手作りです。利用者の皆さんは重い樽を運んだり、冷たい水を使っての作業で大変なことも多いですが、そうした努力のおかげか近年では近隣の生協やヨコサンスーパーで委託販売をさせて頂くようになりました。本格的な手作りの漬物に興味のある方はぜひ1度お手にとってもらえたらと思います。らっきょうは塩・甘酢・しょうゆ漬けが各種300円、梅干しは830円からの販売となります。

縫製作業では利用者の皆さんが日々、ふきんにていねいな刺繍を施したり、複雑なリボン編みのストラップを製作しています。単独では作業が困難な利用者の方も職員と一緒に時間をかけ、販売されるのを楽しみに作業をしています。昨年は鎌倉でこれらの作業の実演販売も行いました。ふきんは1枚250円、ストラップは1個300円です。



茜洋舎 神奈川県横須賀市久里浜6-1 TEL 046-835-0957

編集後記

- ◆今年度も、多くの施設のご協力をいただき、計画どおり発行できましたことに感謝申し上げます。前号から「みらい」の愛称により、各施設のユニークな利用者支援などの特集により、有意義な情報発信ができたのではと思います。今後も、各施設の利用者さんの生活向上につながるような情報交換の場となるよう、ご協力をお願いします。(村田)
- ◆広報委員会を担わせて頂くようになって2年が経ちました。毎回手探りではありますが、今年度は通称もレイアウトも一新して、形になっていく喜びを感じました。今後ともご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。(向井)
- ◆お陰さまで今年度もここまで無事に勤め上げることができました。紙面の中で一つでも仕事や生活へのヒントやきっかけとなるものが、読む方々にお届けできていれば幸い、というのが今の素直な気持ちです。(川村)
- ◆事務局も2年目となり、色々な施設の方と交流ができたことは自分にとって大きな経験となりました。また今年度は会報がリニューアルできて、新しい風を起こせたと思います。ご協力頂いた方に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。(石井)
- ◆今年度、初めて広報の仕事に関わらせて頂きました。紙面の大幅なリニューアルの場に立ち会うことができ、また、各施設の様々な取り組みを知ることができ、とても有意義な経験でした。ご協力くださった皆様、ありがとうございました。(町田)